



学校だより 12月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和4年11月30日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

『にているね！？』～だれもが唯一無二の存在である～

校長 岡崎 陽子

11月は読書月間でした。本校では、図書委員会の活動として読書マラソンと読書くじ、読み聞かせ動画の視聴を行いました。また、読み聞かせボランティアの方や教員による読み聞かせも行い、本に親しむ機会を増やしました。私は、テレビ放送による朝会で『にているね！？』（作. 五味太郎）という絵本を全校に読み聞かせしました。

お話に登場するのは馬と椅子。自分のカッコよさを自負している馬に対して、自分たちは似ていると主張する椅子。馬は最初のうち否定するのですが、どちらも“人を乗せる”、どちらも“乱暴に扱われたらつらい”、どちらも“やさしくしてもらったらうれしい”など共通点がたくさんあることに気がきます。そして最終的に馬は「ぼくときみは おんなじだ」と納得したように言うのです。すると椅子は「いや おんなじじゃない にているっていうことさ でとりあえず おまえはうま おれはいす そういうこと では ごきげんよう」と言い返して去っていくというお話です。

私がこの絵本を選んだ理由は、12月10日の人権デーが念頭にあったからです。これは、1948年12月10日に「世界人権宣言」が国連総会で採択されたことを記念して制定されたものです。日本では12月4日から10日までを人権週間と定めています。

本校では、ペア学年や1～6年までのたてわりグループの活動を通して、人とのつながりの意識を高め、思いやりの気持ちを育てたいと考えて取り組んできました。具体的には、ペア学年での遠足や音楽発表会、たてわりグループでの長縄跳びなどを実施しました。これらの活動を通して、上学年が下学年に思いやりをもって接したり、下学年が上学年に親しみや憧れをもって関わったりする姿が見られるようになりました。12月にはクイズやゲームを楽しむたてわりオリエンテーリングを実施します。

また、人権週間に合わせ、自分や友達、クラスのよさを紹介する新聞を作ることに取り組みます。自分のよさに気付くことで一人ひとりの自尊感情を高め、お互いを尊重し合える子どもたちに育ててほしいと願っています。

馬も椅子も似ているところはたくさんあっても、決して同じではありません。似ているように見えても、それぞれが考えていることや抱えている悩みは違います。簡単に同じだと決めつけて片づけてしまうことは、個の存在を尊重しようとはしていません。「おまえはうま おれはいす そういうこと」という椅子の言葉には、だれもが唯一無二の存在であることを含む奥深さと一人ひとりの存在をありのままに受け入れるというあたたかさが感じられます。そして「おんなじじゃない にているっていうことさ」という椅子の言葉からは、一人ひとりの尊厳を守りながら対応することの大切さについて、改めて考えさせられます。

本校の学校教育目標は「力を合わせ 笑顔が光る日限の子～互いを思いやり 認め合い 進んで活動できるようにします～」です。特に「互いを思いやり 認め合い」という言葉には「人権」（だれもが自分らしく幸せに生きる権利）を大切にしたいという強い決意が込められていると考えます。人権週間を前に、大人の責任として改めて学校、家庭、地域が一体となって「人権」を尊重した社会をつくっていくことの大切さを強く感じています。